浦臼町立浦臼小学校　学校教育活動紹介

校長　　和田　知子

○学校紹介

浦臼町立浦臼小学校は、明治 30 年に公立聖園尋常小学校として設立。明治 37 年には高等科が併置され、聖園高等尋常小学校と改称。その後、聖園国民学校→浦臼国民学校→浦臼小学校と改称されました。平成 7 年浦臼町内にあった浦臼小学校、鶴沼小学校、晩生内小学校が三校統合し、浦臼小学校が開校しました。平成 26 年に大規模改修工事と耐震化工事を実施し、現在の校舎となりました。平成 29 年に浦臼町学校運営協議会が設立され、地域と連携した教育活動が開始されました。

本校は、児童数 66 名、学級数 9 (通常学級 6、特別支援学級 3)の小規模校です。町内の唯一の小学校として、学校に対する地域の期待と関心も高く、大きな支援を受けながら、教育活動に取り組んでいます。

「かしこく　やさしく　たくましく」の校訓のもと、「1 人 1 人が笑顔で生き生きと輝く学校」をめざし、協力的な保護者と地域の方々と一緒に、未来を担う子どもたちを育成していきます。

○行事や特色ある活動の様子

浦臼町の歴史は古く、縄文時代の土器が出土し、アイヌがコタンで生活していたことがわかっています。また、明治時代には高知、徳島、長野県からの入植があり、坂本龍馬の子孫が浦臼で生活していた歴史もあります。本校では浦臼の「歴史と農業」という地域資源を積極的に活用して教育活動を展開しています。

○　ふるさと学習を生かした教育活動

お米作り体験や、校舎前の学級園を生かした野菜作りを積極的に取り組んでいます。

○　地域の特色を生かした教育活動

ふるさと学習のまとめとして「浦臼町 PR 大作戦」を行い、札幌地下歩行空間などで PR 活動をしています。

○　地域の歴史を生かした教育活動

アイヌ文化財団の方を講師に迎え、アイヌの暮らしや遊びについて学習しています。

○　地域施設を生かした教育活動

郷土資料館を活用して坂本龍馬に関する資料やチャシ跡の発掘資料などの学習に取り組んでいます。